

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

瑞江第二中学校

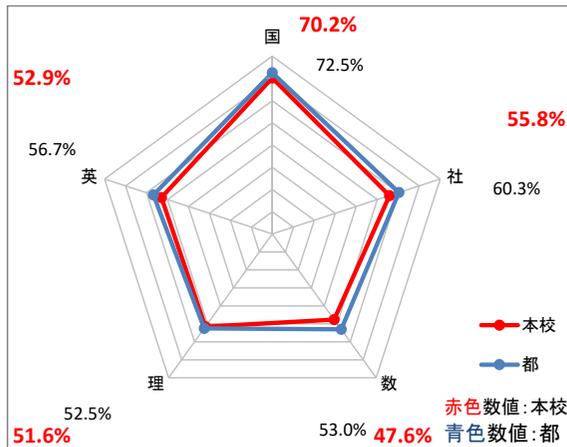
国語	教科の観点						読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	92.5%	68.1%	78.0%	70.5%	70.1%	73.2%	85.8%	64.2%	62.4%	69.2%	72.5%
本校	89.7%	69.0%	73.3%	69.8%	66.4%	70.6%	86.2%	66.4%	52.6%	67.9%	70.2%
都との差	-2.8	0.9	-4.7	-0.7	-3.7	-2.6	0.4	2.2	-9.8	-1.3	-2.3

社会	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	94.4%	59.9%	57.6%	62.0%	62.9%	62.9%	42.9%	46.8%	50.9%	60.3%
本校	97.0%	59.5%	51.4%	53.2%	58.0%	55.2%	40.5%	47.4%	47.7%	55.8%
都との差	2.6	-0.4	-6.2	-8.8	-4.9	-7.7	-2.4	0.6	-3.2	-4.5

数学	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	77.6%	41.6%	53.9%	58.8%	55.6%	49.6%	49.3%	35.4%	45.4%	53.0%
本校	82.8%	37.6%	48.5%	49.8%	50.5%	42.8%	39.2%	32.8%	38.9%	47.6%
都との差	5.2	-4.0	-5.4	-9.0	-5.1	-6.8	-10.1	-2.6	-6.5	-5.4

理科	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	86.7%	45.7%	61.4%	46.8%	53.4%	78.7%	49.8%	19.5%	49.4%	52.5%
本校	89.1%	43.7%	61.1%	44.0%	51.8%	80.9%	53.9%	18.3%	51.0%	51.6%
都との差	2.4	-2.0	-0.3	-2.8	-1.6	2.2	4.1	-1.2	1.6	-0.9

英語	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	82.6%	31.7%	69.5%	59.3%	60.2%	45.2%	52.9%	37.4%	45.2%	56.7%
本校	83.9%	19.3%	65.2%	56.7%	55.3%	45.2%	51.3%	37.8%	44.8%	52.9%
都との差	1.3	-12.4	-4.3	-2.6	-4.9	0.0	-1.6	0.4	-0.4	-3.8



《都との比較にみる本校の状況》

・比較
「教科の観点」においては、「関心・意欲・態度」の項目で、社会・数学・理科・英語が都の平均を上回った結果であったが、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の項目においては、都の平均を下回った結果となった。
「読み解く力」において、理科が都の平均を上回った。

・本校の状況
「教科の観点」よりも「読み解く力」の方が、都の平均に近い数値である。これは、グループ学習(「コの字型の机配置」や「4人組での学び合い」)を行うことにより、他者の意見について深く考え、結論を導き出せる力がついたらと考えることができる。また、これにより「関心・意欲・態度」の力がついていることも結果からわかる。
一方、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」は都の平均を下回っていることから、基礎・基本の定着が課題であるとわかる。

《授業改善のポイント》

- 1 「コの字型の机配置」「4人組での学び合い」の方法と質の向上を図るとともに、個別学習の充実を図る
- 2 すべての生徒が授業に主体的に取り組める環境を整備し、自ら考え判断し解決するような力の育成の工夫を図る。
- 3 東京ベーシックドリルを積極的に活用する。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習習慣の定着をねらいとして「家庭学習ノート」の取組をしている。また、年度初めに、学習方法の参考として「家庭学習のススメ」を発行して具体的な学習方法を伝えている。今後も継続して家庭と連携をしながら取り組みたい。